2023年度研修旅行 沖縄コース 実践報告

後　藤　大　祐（保健体育科）
玉　田　香　苗（保健体育科）

1．はじめに

5コース分散となり初めての研修旅行で、我々は沖縄に向かった。

沖縄コースの研修テーマは「平和学習」。同コースを選択した生徒78名のうち、研修リーダーとなる25名は2024年1月の実地研修に向け、2023年4月より、週に1度の「総合的な探究の時間」を利用し、事前学習を進めてきた。そして実地研修から戻ったあとは全員でスライドを作成し、成果を報告した。

今回はこの研修一連の活動を報告させていただく。

現地研修日程　2024年1月10日(水)～13日(土)
引　　率　　後藤　大祐(保健体育科)、玉田　香苗(保健体育科)、
　　土井ゆかり(外国語科)
参加生徒　　78名

2. 沖縄の背景

琉球王国は、江戸時代を通じて日本（鹿児島藩）と中国に両属していたが、明治4年（1871）の廃藩置県に伴い、鹿児島県の下に入ることになる。翌5年(1872)、政府は、琉球国王尚泰を琉球藩王に封じ華族とし、同様に琉球王国を「琉球藩」とした。しかし明治12年（1879）に琉球王国が崩壊、ここに

「沖縄県」が誕生した。

昭和16年（1941）12月8日の真珠湾攻撃によって太平洋戦争に突入すると、沖縄の各島々には飛行場の建設が進められ、実戦部隊が配備されるなど、沖縄はアジアへの前線基地としての色合いが濃くなっていく。昭和19年（1944）の10月、ついに沖縄上空にアメリカ軍の戦闘機が現れ、空襲により那覇市は炎上、壊滅状態に陥った。昭和20年（1945）になると、アメリカ軍の襲来は激しさを増し、3月には慶良間に上陸。住民を巻き込んでの地上戦となり多くの犠牲者を出した。続いてアメリカ軍は4月に沖縄本島への上陸を果たし、本島を中部で分断、北部から攻め落とし、行き場を失った日本軍と住民は南部へと追い詰められていった。日本軍の牛島満司令官の自決により、最後の砦「摩文仁」をアメリカ軍が占領し、ここに総死者数20万人を超す沖縄の地上戦は終結した。

3. 現地研修について

以下、沖縄研修旅行の行程である。

1日目　2024年1月10日（水）

【羽田空港　ひめゆり平和祈念資料館・ABコース別ディスカッション】

羽田空港

↓

沖縄那覇空港

↓

首里天楼別邸　昼食

沖縄に到着してすぐに、飛行機の轟音など、現地の雰囲気を肌で感じながら昼食会場へ。沖縄そばやゴーヤチャンプルなど、郷土感満載の沖縄料理をいただき、いよいよ研修旅行のスタート。

↓

ひめゆり平和祈念資料館

最初の訪問先、ひめゆり平和祈念資料館は、約60分の滞在時間を講話なしで自由見学とした。他の団体と帰りのタイミングですれ違ったくらいで、館内はほぼ貸し切り状態であった。生徒達は、自分のタイミングで、興味のある展示を十分見学できたようである。沖縄研修旅行全体のテーマ『平和学習』の濃い時間を生徒達は初日から体感していた。

↓

ダブルツリーbyヒルトン那覇

ABコース別ディスカッション

A：戦争・基地問題≪友の会≫　B：サンゴ・赤土問題≪恩納村観光協会≫

この2コースは、11月11日に、オンラインで事前学習実施した。お話頂いた講師の先生と、沖縄で実際にお会いし、さらに学びを深めた。一テーブル10人前後の生徒に、講師の先生1名についていただき、最後は、テーブルごとに、話題となった内容の紹介と振り返りを発表した。

2日目　2024年1月11日(木)　【4コース別平和学習　タクシー研修】

ダブルツリーbyヒルトン那覇

↓

4コース別平和学習（午前）

≪師範健児の塔(ガマ)・富盛の石彫大獅子・平和祈念資料館・旧海軍司令壕≫

師範健児の塔（ガマ）

富盛の石彫大獅子

平和祈念資料館

旧海軍司令壕

『平和学習』として設定した4コースから、タクシー研修班ごとに生徒達が選び、午前中は、その1か所を見学した。教員は、師範健児の塔（ガマ）に同行した。ガマ案内人の方から、戦争の悲惨さや、生きたいと願う人々の話を伺った後、ヘッドライトを付け軍手を手にしてガマへ入った。かがみながらやっと

入れる狭い鍾乳洞の中で、まだ遺骨がそのまま置かれている「健児之納骨堂」を目の当たりにして、生徒達は神妙な面持ちで、沖縄の歴史を考えていた。見学が終わった班から、タクシー研修をスタートさせた。

↓

タクシー研修（午後　昼食はタクシーごと）

以下、各班の探究テーマである。

沖縄　タクシー班別　『探究テーマ』　一覧

歴史	戦争の実状を若者に伝えられているのか　なぜ観光地として発展したのか　戦争の跡地を調査
	戦後の復興において重視した点を調査
	戦時中の海軍とその周辺環境を考察
食文化	フードロス問題の解決策を提案するために現地調査（インタビュー）をする
	サーターアンダギーが沖縄を中心に広まった理由
	沖縄には肥満が多いと聞いたがなぜなのか
	沖縄とアメリカとの関係や食べ物について詳しく知る
	東京の沖縄料理と現地の沖縄料理の味付けに違いがあるのはなぜなのか　現地で使われている材料について調査
	沖縄料理がアメリカ料理から受けた影響は？
	肥満・生活習慣病の解決策を提案するために、食文化を調査
その他文化	アメリカと沖縄の結びつきを知り、異文化共生の大切さを知る
	方言離れの解決　方言維持のために調査
	伝統工芸品や文化について実際に体験
観光	オーバーツーリズムによる弊害の解決策を考える
	規模が違うお土産屋の違いは何か
	沖縄が観光地として人気な理由を現地調査
	観光地の知名度の差はなぜ生じるのか　様々な項目を数値化し比較する
自然	沖縄の海洋問題を知るために、美ら海水族館へ
	沖縄の海の「きれい」を東京湾でも再現できるのか
	沖縄で独自に進化した生物の知識を深め、また、どのように自然保護の取り組みをしているかを知る

以下、研修後、成果報告会用に生徒が作成した、スライドの一部である。

20班のタクシーごとに、自分達で決めた探究テーマの実地調査を行った。次のホテルがある国頭郡本部町、北に向かうという目的もあるタクシー研修である。自分達で決めたテーマの解決に向けて、どのようなコースをたどれば実態が見えてくるのか。班ごとに事前に練り上げた行程を進みながら調査と探究を行った半日であった。

↓

ロイヤルビューホテル美ら海

3日目　2024年1月12日（金）【ABコース別フィールドワーク　民泊入村式】

ロイヤルビューホテル美ら海

↓

ABコース別フィールドワーク（午前）

初日の夕方にディスカッションを頂いた、２コースのフィールドワークである。

A：戦争・基地問題【嘉数高台公園】

弾丸の跡が刻まれている壁や、軍人が隠れていた陣地壕など、沖縄戦の爪痕がそのまま残されている嘉数高台公園。ここでおびただしい数の兵士の命が失われたという、アメリカ戦の説明を聞きながら高台へ向かった。そこからは、嘉手納基地を臨むことができる。基地を離発着するオスプレイや戦闘機の数を

24時間体制で監視している国の職員が、基地へ視線を送っていた。沖縄と米軍基地の関係、今も世界では戦争が起こっていることなど、生徒達は、様々な角度から平和について考えていた。

Ｂ：サンゴ苗作り・沈砂池の見学【恩納村観光協会】

恩納村観光協会では、まず、環境問題と苗づくりの説明動画を視聴した。その後、株分けされたサンゴを石灰岩プレートに針金で巻き付ける苗づくりを体験した。その石灰岩プレートには、各々自由にメッセージや絵を描いていた。次に、沈砂池の視察に向かった。短い時間であったため、生徒達は赤土問題について、もっと触れたかったようである。

↓

民泊　入村式　【今帰仁城跡】

民泊は、本校において、研修旅行の行程で実施されるのは、今回が初めてである。世界遺産の今帰仁城跡にて、2人の生徒が司会を担当し、入村式を行った。受け入れ民家の皆さんからはサプライズで、沖縄民謡と三線の生演奏という、大歓迎をいただいた。

生徒達は、初対面で緊張した面持ちであったが、沖縄の暮らしを体験できるという期待を胸に、民家のお父さん、お母さん、ばあば、じいじと共に、車に乗り込んで行った。

4日目　2024年1月13日（土）【民泊離村式　国際通り　羽田空港】

民泊　離村式　【今帰仁城跡】

1泊過ごした後の離村式では、昨日とは全く違った雰囲気となっていた。研修旅行終了後にとったアンケートでも、満足だったことの項目は、「民泊」が圧倒的な票を獲得した。民家ごとにおもてなしをいただき、沖縄の暮らしを体感できたことは、生徒達に大きな気付きと変化をもたらしたようである。コロナ禍を経て、様々な場面で、コミュニケーションのとり方に不安を感じることが多くあったが、この民泊体験後、生徒達の積極的な対応と目の輝きに、成長

を感じた。

↓

国際通り　自由時間　昼食

いよいよ最後の目的地、国際通りで90分間の自由時間。少ない時間であったが、昼食とお土産購入などを生徒達は楽しんでいた。

↓

羽田空港

4. 反省及び感想

教　員

【良かった点】

・民泊はほとんどの生徒にとって、良い体験だったようである。

・現地での教員の負担は、今回は少なかった（体調不良者対応以外）。

・見学だけでなく、ボランティアガイドさん始め民泊体験など現地の方との交流ができたこと。

・到着後すぐの食事（１日目昼食）が沖縄らしい雰囲気のあるレストランで伝統料理が食べられたこと。

・２日目タクシー研修４コースの中の「ガマ」…実際にガイドさんの語りを聞きながら、狭いガマに這いつくばりながらヘッドライトを照らして奥まで入り、納骨堂や放置されたままの人骨を目の当たりにできたこと。

【次年度以降、検討した方が良い点】

・沖縄は、レジャー要素が多くあるが、今回は学びとの境目が曖昧であり、メリハリがなかった。「個人の探究課題をどこまで広げるか」と「行程」を再構築する必要性を強く感じた。
・他のコースは、現地で自分達の事前学習を披露する機会があったが、沖縄は全く無かった。設けるべきだったと強く感じた（生徒は受け身の時間が多くなってしまった）。
・ひめゆり・平和祈念資料館・ガマ・民芸体験など…全員必須の行程をどれにするのか、沖縄研修旅行全体のテーマと合わせて、教員側で設定するコースと生徒の探究テーマとの調整が必要であると思う。
・民泊は当たり外れが大きかったようである。ほとんどコミュニケーションがない民家や、偏った考えを2時間位聞かされた…などの声があった。旅行会社と現地の仲介業者にも生徒の声を届けて改善したい。
・行程上仕方なかったが、毎日違うホテルに宿泊（3泊目は民泊）することになり、慌ただしさがあった。
・ホテルグレードを上げてもらいたい。今回の2つのホテルは、リゾート感が全くなかった。
・ホテルの食事は、高校生向けであったが現地ならではのメニューを1,2品は入れてもらいたい。
・タクシー研修は本当に見学してほしいコースを全体で行ってから各々が考えたコースに分かれた方がすっきりして引率者も全体が掌握しやすい。それぞれのグループの「テーマ」があまり明確に見えないルート設定だったように思う。どの班も似たりよったりのルートになってしまった。

・沖縄ならではの「文化体験」コースが少なかったように思う。沖縄に来たからこそできる文化体験を全員にさせてあげる時間も必要かと思う。（例：１・２日目…「平和学習」、３日目午前…「文化体験」、午後…「民泊」、４日目帰京）

生　徒

【事前学習】

・ちゃんと現地で明確な答えが出そうな問いを立てた方がいいと思いました。
・タクシー研修の予定を決める時間が思っていたよりギリギリだったので、もう少し長い時間あっても良いのかなと思います。
・インターネットなどで調べるだけでなく、出来る人は実地調査を積極的に行うのがいいと思う。実際、自分は沖縄の海と東京の海を比べる課題で、実際に東京湾(お台場海浜公園)に行って、直に東京湾を自分の目で見たことで、沖縄の海を見たときに、その違いをより感じることが出来た。
・事前学習のテーマが自分にとって学びたいと思える、興味がある内容であるかどうかをしっかりと踏まえ、決定すること。
・友達と過ごす研修旅行はすごい楽しいものだと思うので学習面をサボってしまうと（事前学習が）ただの退屈な時間になってしまいかねないので有意義な時間を過ごすためにはテーマ設定がとても重要になってくると思います。
・班を決める際、同じ探求テーマで固めることも大事だと思う。しかし、私のように女子一人になった場合、沖縄で研修中になにか体調不良など起こったさいに頼れる人がいないという不安感をもって研修に望まなければならないので、そこを考慮してほしいと思った。
・自分が何について調べるか決まった後、現地に行かなくても分かることを調べて、その後に現地で何を調べたいのかまで考えながら事前学習すること。
・動画を作るというのは、新しくて面白かった。それは続けた方がいいと思う。作業時間が少なかったのが残念。民泊の魅力をもっと伝えるべき！

・現地の人や教授の人とお話する時は質問を考えておいた方がいい！
・沖縄に行って何をどのように調べるかを事前学習の時点ではっきりさせておく。少しでも曖昧な点があると事後学習のタイミングで困ることがある。

【現　地】
・グループディスカッションを通して、話したことがなかった人とも話すことができた。少人数でお話を聞くことができたため、よりたくさんのことを学べたと思いました。同じ方に現地でも案内をしていただくことが出来たので、お話を理解しやすかったです。民泊はとにかく楽しいことだらけでした！正直、初めは民泊に泊まる経験が初めてだったので緊張していたのですが、お父さん・お母さんがすごく優しくたくさんのことを教えてくださり嬉しかったです。帰る時には、もう1泊したかった…と心から思ってしまうぐらい、「楽しい」が詰まった1泊2日でした。サーターアンダギーを作ったり、海で貝殻を拾ってフォトフレームを作ったり、星空を見たり…普段なかなかできない貴重な体験をすることができました。
・初めて行く沖縄というものもあるが、東京とは違う気候・文化・重い歴史、その全てが新鮮でいくらメモをとっても足りないくらいだった。また、自分が元々立てていた問いを解決できた。最も充実しもっと多くの情報が欲しいと思った体験は、２日目の大獅子と白梅学徒隊の沖縄戦での状況をお話していただいたことで、白梅学徒隊の戦時中の過酷な環境下で生きようとした少女たちを詳しく聞いたことで涙が出そうになった。苦しかったがもっと知りたいと思うようになった。タクシー研修が終わったあとのホテルで、しおりに２日目の出来事を書いているときは衝動に駆られていたように思える。確かに美ら海水族館や民泊などの「楽しい」満足感もあったが、それよりも心が重くなるような施設やお話もあったため、個人的には「悲しい」満足感があり、普段では体験できないものを多く見て、感じて、学んで、思えたことが何よりも嬉しい。沖縄に行けて良かったと思う。

・民泊の方がとても詳しくて沖縄の植物や食事など知識をつけることが出来たので想像以上に充実した。
民泊は思っていたよりも自由で、沖縄の生活を実際に感じられて楽しかった。平和学習として、今まで沖縄戦のみに焦点を当てた施設に訪れたことはなかったため、新たな学びを得ることができた。また、沖縄でしか体験できないことにいくつも挑戦でき、沖縄に行った甲斐があったと感じた。
・全体を通して、沖縄のテーマである平和とは何か(自分はAコース)に関連した行事が多くてとても良かったと思う。ひめゆり平和祈念資料館では、実際に野戦病院として使われていた洞穴や、ひめゆり学徒隊や、その他の当時の沖縄の学生が書いた手記や日記なども読むことが出来て、文字だけでも当時の沖縄がどんなに凄惨な光景であったかを想像することが出来た。2日目の午前のフィールドワークでも、実際に当時日本兵や民間人が隠れていたガマに入って、意外と狭いスペースで過ごしていたこともわかった。3日目には嘉数高台公園へ行って、自分の目で普天間飛行場と、そこに停留している件のオスプレイを見たり、トーチカを見たりすることが出来た。また民泊では、沖縄の伝統料理を食べたり、三線の体験をさせてもらったり、また夕飯のBBQでは星がとてもキレイだった。あと、単純に自分が飛行機に乗るのも、沖縄に行くのも初めてだったので、そういう体験自体がとても楽しかった。
・私はフィールドワーク先として平和記念資料館に行きました。以前から戦争関連に興味はありましが、なかなか資料館や博物館等の場所に行く機会はなく、正直自分の趣味や友達との遊びなど自分にとっての「楽しい場所」に足を運ぶばかりでした。なので、映画や本からのみの知識であり、かつその大部分は実際の様子の写真、映像は伏せられていました。しかし、この資料館では実際の写真や再現なども隠すことなくありのままの姿を見ることができた貴重な体験でした。また、民泊に関しては、ばあばが「ただいま」、「おかえり」を言って言ってとねだったり、「ばあばはこれからみんなを本当の孫として接するからね。」といった言葉がとても嬉しく、東京ではなかなかで

きないような素敵な思い出をたくさん作ることができました。

・民泊では満足できた一方、正直1泊2日だととても短く感じました。2日目があればもっとたくさんの経験ができてより満足できると思いました。楽しかったからこそ、もう少し長く民泊の時間があればより満足感が生まれると思いました。どの行程も楽しく、新鮮な経験がいっぱいでした！
民泊がいちばん楽しい！ぜったい経験するべき！

・最高に楽しい四日間だった。61期生の話を聞くとみんな民泊があるから沖縄やめたっていう人が多かったので、もっと民泊の魅力を伝えて欲しい。

・しっかり調べ学習をした上で訪れると興奮するし、より理解が深まるので事前学習をちゃんとするべき。

4. 実地研修を終えて

数年ぶりに沖縄の研修旅行が復活した。今回は「総合的な探究の時間」を利用して多くの時間を事前学習に費やした結果、生徒たちはあらかじめ各班で設定した問いをもって現地に入り、そこで調査を行い、帰京後に結果を報告するという、これまで以上に「研修」の色の濃い旅行となった。あらかじめオンラインにて現地の方にお話を伺い、沖縄の気候・地勢について学ぶとともに個別のテーマ（基地問題・環境保全）についても知識を深めた。旅程も刷新し、初めて民泊体験を導入した。5コース分散型となって初の研修旅行ということで次年度に引き継ぐ反省点も多かったが、生徒からの反応は概ね好評であった。今後も回を重ねるごとにブラッシュアップされ、より良い形の研修旅行となることを期待する。